

# 令和元年第2回議員とカダる会(11月11日開催)

## 「議会として特に執行機関に伝えるべき」とした意見一覧

No.	開催会場	意見等の要旨	理由・背景等	執行機関からの回答内容
1	北部地区農村環境改善センター	後潟小学校の災害時に使う発電機の燃料(ガソリン)が切れていた。	管理体制がどうなっているのか心配である。	各防災倉庫に配備している防災資機材については、年度当初に点検の計画を作成し、毎年1回巡回して点検を行っているところであり、発電機については、試運転などによる動作確認を行っているところです。 発電機の燃料については、劣化防止の観点から少量での充填に止めており、実際の使用時には同じ防災倉庫に備蓄している缶詰めガソリンを充填して使用することとしております。
2	北部地区農村環境改善センター	町会ごとのハザードマップが必要。	いざというときの避難に活用できるものとする。(詳細が今のマップではわからない)	市では平成26年度から平成27年度にかけて「青森市災害被害想定調査」を実施したところです。その結果の概要をまとめた「地区別防災カルテ」は、小学校区を基本単位として市内を47地区に区分しており、被害予測の結果とともに、各地区の人口や建物数、避難所などの防災関連施設等の分布などの情報のほか、各地区の避難所などの防災関連施設に関する情報、津波・洪水の浸水想定区域や土砂災害に関する警戒区域など、災害危険箇所に関する情報を地図上に示しているものであり、市ホームページで公開しているところです。このほか、防災講話や防災訓練をはじめとする様々な機会を活用し、市民の防災に関する知識の普及に努めているところです。 この「地区別防災カルテ」を、家庭や職場、さらには、町会や町内会で構成される自主防災組織などの防災について話し合う機会の中で、必要とする情報を本カルテの地図やメモ欄へ書き込むなど、様々な場面で活用していただきたいと考えております。
3	北部地区農村環境改善センター	六枚橋の水門がこわれていて開閉できない。	水門がさびているとのことであり、改修が必要と考える。	ご意見の水門は、二級河川六枚橋川の河口付近に設置されている排水樋門でありますので、当該樋門を管理する県へご意見をお伝えします。
4	荒川市民センター	小牧野資料館が指定避難所になっているが、地元の人間が鍵を開けられるようにはなっていないので、緊急時に間に合うのか不安である。	資料館には貴重な資料が保管されているからの市の説明だが、そうすると指定避難所として適当であるのか疑問を抱く。	指定避難所を開設する際には、直ちに職員を配置することとしており、当該職員が避難所に駆けつけるとともに、避難所の施設管理者に連絡し、職員と施設管理者が、施設の安全確認と、電気・水道・ガス等のライフラインやトイレ、通信設備等を確認した上で避難者を受け入れることとしております。 なお、防災倉庫については、市が管理している防災資機材等を保管しており、安全性の確認や、在庫管理の観点から、開錠は市職員が行うこととしておりますが、市職員が対応できない場合に備えて、施設管理者(学校長、センター長等)においても鍵を保管しているところです。 二次被害を防ぐ観点からの施設の鍵の取り扱いとなっていることから、ご理解くださるようお願いいたします。

No.	開催会場	意見等の要旨	理由・背景等	執行機関からの回答内容
5	荒川市民センター	警戒レベル3で後期高齢者等を避難させたいが、現実的にどう対処すればよいのか難しい。	警戒レベル3で避難できれば死者も出さずに済むと思われるが、現実的には避難を拒む人や車いすの人をどう避難させればよいかわからない。	<p>避難情報については、これまでも高齢者等の避難に時間を要する方や、災害の発生しやすい地域に居住する方が余裕を持って避難行動がとれるよう、「避難準備・高齢者等避難開始」を発令し、早めの避難を促すこととしており、加えて、避難情報を発令していない場合であっても、自宅等で滞在するのが不安な方々などの自主的な避難に対応するため、気象情報等を考慮してあらかじめ自主避難所を開設しているところです。</p> <p>さらに令和元年6月からは、市民の皆様が情報の意味を直感的に理解し、適切な避難行動をとっていただけるよう、市が発令する避難情報や気象庁等からの防災気象情報を5段階の警戒レベルで表し、警戒レベル3では高齢者等は避難、警戒レベル4では全員避難とするなど、それぞれの段階に応じてとるべき対応をお知らせすることとしております。</p> <p>また、避難の考え方として、避難所に行くことだけが避難ではなく、まずは自らの命を守る行動をとる事が大事であり、例えば、大雨や暴風の際に避難所へ向かうことが危険であると判断される場合は、自宅2階へ垂直避難することなどが適切な避難行動となる場合があり、自らの命を守る行動について、今後も周知を図ってまいります。</p>
6	荒川市民センター	とにかく情報(災害に関わる避難など)を早く発信してほしい。さきの台風19号のときは、他の自治体より早く避難所開設の情報が出されてよかった。	市の情報発信を評価する一方で、今後さらに取り組みを進める必要があると感じたため。	<p>上記(No.2)に加え、市では、「つよい街」として、市民防災を促進し、災害に強いまちづくりを進めており、携帯電話やスマートフォンをお持ちの方は、メールマガジンの受信によって、迅速に避難情報等を得ることができることから、ぜひ、メールマガジンを登録し、災害時の避難行動に役立ててくださるようお願いいたします。</p>
7	荒川市民センター	タウンミーティングの回数を増やしてほしい。	市側の職員を少なくして回数を増やしてはどうか。そうすれば参加できる人も増えるのではないかと。	<p>あおもりタウンミーティングは、平成29年度から、市民ニーズや地域の課題を把握し、市政運営の参考にするとともに、地域の個性を活かしたまちづくりを推進するため、地域の状況を十分に把握している地区連合町会等を対象に開催しており、1年間で、37地区連合町会及び5地域協議会(青森地区)並びに青森市浪岡町内会連合会の計43か所を一巡するものです。</p> <p>開催にあたっては、地区連合町会等の意向に沿って、開催時期や、参加者の範囲、テーマなどを判断いただいているところです。</p>
8	荒川市民センター	荒川地区の通学路(狭隘道路)の除雪をしっかりとってほしい。	月1回程度しか除雪されず、(市道を)近隣で費用を出し合って除雪してもらっているため。	<p>市道(生活道路)の除排雪は、概ね15cm以上の降雪があり、かつ交通の確保が困難となった場合実施することとしており、まとまった降雪があった場合パトロールで道路状況を把握し、町会や市民の皆様からの情報や気象情報を踏まえて出動指令を出しております。</p> <p>今後とも早目のパトロールによる道路状況の把握に努め、道路交通及び歩道の確保のため、丁寧な除排雪に努めて参ります。</p>

No.	開催会場	意見等の要旨	理由・背景等	執行機関からの回答内容
9-1	荒川市民センター	バスの時刻表の冊子が見にくく、わかりにくい。	改善が必要と考える。	市営バスでは、分かりやすく路線・系統を案内するため、令和2年3月のダイヤ改正にあわせ、通り名や経由地などの路線名に改めるとともに、「系統番号」を導入することとしており、バス時刻表冊子(ポケット時刻表)についても、新しい路線名と「系統番号」を記載するなど、より分かりやすい時刻表となるよう改善に努めて参ります。
9-2	荒川市民センター	また、市民バスは狭く、古く、寒い。		市民バスは、市営バスにおいて事業採算性が低いことから維持が困難であった路線について、地域の足として確保していくため、民間バス事業者への委託により路線バスとして運行しているものです。 今後も、利用者の御意見を踏まえながら、利便性の向上に努めてまいります。
10	荒川市民センター	若者が参加しやすいイベントやお祭りなどをもっと開催してほしい。毎年やるイベントなどがあればいい。	参加者からイベントの開催が少なく、情報発信も届いていないと感じているとの訴えがあったため。	市が実施または支援するイベントについては、観光の振興・誘客促進を図ることを目的に、様々な事業の中での優先順位や費用対効果などを踏まえて実施してきているところであります。今後においてもこのような考えのもと、様々な取組について磨き上げとスクラップ・アンド・ビルドを行いながら、事業を実施して参りたいと考えます。また、イベントの開催に当たっては、広報あおもりや市HPのほか、あらゆる媒体や機会を捉え、周知を図っているところです。